

令和7年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：24003

学校名：上白石小学校

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 ＜男子＞	○全国・札幌市の記録と同程度の種目 反復横跳び、立ち幅跳び ○全国・札幌市の記録を下回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、 20mシャトルラン、50m走	多くの種目で、全国・札幌市の平均記録を下回る結果となった。体育だけでなく、休み時間に体を動かす機会の充実を図る必要がある。また、自らの体の使い方を客観視する機会を授業の中に設けることも効果的であると考ええる。
体力・運動能力 ＜女子＞	○全国・札幌市の記録と同程度の種目 上体起こし、ソフトボール投げ 握力、長座体前屈 ○全国・札幌市の記録を上回った種目 20mシャトルラン、50m走 反復横跳び、立ち幅跳び	多くの種目で全国・札幌市の平均記録と同程度か上回る結果となった。休み時間に体を動かして遊ぶ児童が多いことがよい記録につながっていると考える。
運動・スポーツへの意識 運動習慣	○「運動が好き」と感じている児童の割合 男子…64.7% 女子…52.9% (全国平均 男子 73.0% 女子 54.8%) ○1週間の総運動時間が420分を超えている児童の割合 男子…58.8% 女子…47.1% (全国平均 男子 50.5% 女子 28.5%)	運動に対する肯定的な思いは全国平均よりも低いが、男女ともに運動習慣は定着していることが分かる。今後は運動の楽しさを感じられるような場づくりや体育の授業づくりを行い、継続的に運動に取り組む児童を育てていく。
①体育・保健体育等の授業の充実		②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組
具体的な取組	○「選択」できる場づくり 技の種類だけではなく、自分のレベルに合った技を選択できる場（柔軟性、敏捷性等）を設定し、運動の心地よさを味わえるようにする。 ○ICTを活用した学習展開 タブレットを活用し、自分や友達と動きを見合い、動きを検証したり分析したりできる機会を設ける。 →自分の姿勢、動きの自覚化 →手本となる動きとの客観的な比較 ○健康な生活に関する内容を日常生活に生かすことができる指導の充実 発達段階に応じた体や心の成長や性に関する指導を養護教諭と連携しながら行う。	○三間（仲間、時間、空間）の創出 「跳び箱週間」「マット運動週間」を設定し、運動時間の確保に努める。期間内は、体育館の壁側に学習用具を保管しておき、休み時間にも利用できるようにする。 ○「ジャンピングロープデイ」の実施 月に1～2回、休み時間に縄跳びに取り組む日を設ける。縄跳びの技がレベル別に書かれた「なわとびカード」を活用し、中・昼休みに挑戦できるようにする。また、各学級に大縄を配置し、遊びに活用する。 ○場の設定 スポーツテストの時期に、50m走コーナーやボール投げコーナーを設け、事前に練習できる環境を整える。
	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組	
		○健康教育の指導計画を生かした目標設定 ・運動、食事、睡眠の健康三原則について、各自が具体的な目標を設定する。 ・学校と共に、保護者の協力も得ながら、より継続的な取組とする。 ○食指導の充実 ・給食の親学校との情報共有を密にしながら、児童への啓発活動の活性化を図る。 ・栄養教諭による「食に関する指導」を児童の自己チェックと関連付くよう工夫する。 ○家庭との連携 ・さっぽろっ子「学び」のススメの活用 ・学校だより、保健便り、給食便り、ホームページを利用した、継続的な呼びかけや啓発を行う。
家庭・地域との連携・協働	○保健体育の評価基準に基づく学習状況評価の結果の活用 ○全国体育・運動能力、運動習慣等調査との比較、分析、活用	○学校アンケート(児童・保護者)での体育・健康に関する意識調査の活用 ○学校評議員会・学校関係者評価等の活用

